



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	木村 敦		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 5		
講義室	1211	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G [状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L [協同力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M [省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（10%） E1 学識と専門技能（20%） I1 理解・分析と読解（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（20%） K2 オーラル・コミュニケーション（20%） L1 チームワーク（10%） M1 総合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	とくにありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、資料やデータに基づいて妥当な論考を行い、卒業論文を執筆して完成させます。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理、研究論文、卒業論文、成果発表		

授業の趣旨	■副題 危機管理上解決すべき心理学的問題解決に資する研究の学術的報告 ■授業の目的 本ゼミナールでは、危機管理に関わる心理学的な諸問題を概観する中で、受講者が自らの関心に基づき研究テーマを設定し、卒業論文に向けて研究を進めていきます。当科目では、資料やデータに基づき妥当な論考を行い、それらの研究成果を卒業論文として完成させ、成果発表を行うことを目的としています。 ■授業のポイント 卒業論文の期限までの提出、および授業内で実施する卒論成果発表会での発表に向けて卒論研究を進めます。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができる。 ・所定の書式に沿って卒業論文を執筆できる。（第1～12回） ・問題意識を持ち、探究することができる（第2回～第8回） ■卒業論文の成果をプレゼンテーションにより適切に表現することができる。 ・序論から考察まで論理的なプレゼン資料を作成することができる（第11回～第15回） ・卒業論文の成果や危機管理上の意義をプレゼンテーションとその質疑応答により適切に表現することができる（第11回～第15回）	
成績評価方法	■卒業論文 1回（70%）：適用ルーブリック C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） 研究の新規性・有効性・信頼性・完成度（形式遵守含む）について評価します。 （フィードバックの方法） 進捗報告時に個別にフィードバックを行います。 ■授業におけるプレゼンテーション 2回（20%）：適用ルーブリック C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） レジュメの内容（必要事項がすべて盛り込まれているか、分かりやすいレジュメとなっているか）、プレゼンテーションの論理構成（指示された内容について明解な論理構成に基づく報告となっているか）、プレゼンテーションの手法（時間が守られているか、聞き手に分かりやすい話し方か）などについて評価します。 （フィードバックの方法） 報告内容について解説するとともに、評価の観点に基づいて報告後に講評を行います。 ■授業参加度 15回（10%）：適用ルーブリック C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） 研究の進捗に加え、他者の報告に対する自らの疑問・考察などを積極的に発言しているか、他者から示された意見や疑問に対し、自ら考えフィードバックを行っているかなど、演習授業の構築への参加について評価します。 （フィードバックの方法） 毎回の授業のまとめの際に、各自の議論への参加について公表します。	
履修条件	条件ではありませんが、「社会心理学」「ヒューマンエラー論」「犯罪心理学」といった心理学系専門科目の単位あるいは同等の知識・技能を修得済か、3年次終了時までに単位取得されることを推奨します。	
履修上の注意点	少人数で行うため、できる限り出席し、発言することが重要です。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおり、授業の全体的な概要を理解する（E1、L1、M1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 授業の狙いや内容などについて確認する。
	2	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（1） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所が

	あればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
3	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（2） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
4	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（3） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
5	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（4） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
6	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（5） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
7	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（6） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分）

	報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
8	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（7） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
9	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（8） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
10	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（9） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
11	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（10） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
12	①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（11） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめてくる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。

	13 ①授業テーマ 卒業論文の執筆とプレゼンテーションの作成（12） ②授業概要 卒業論文を執筆し、その進捗状況を報告する（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、成果発表に向けて発表資料の作成等の準備を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文の執筆箇所を読み直し、論理や形式、完成度の点で相談・修正すべき箇所があればその修正案をまとめる。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの卒業論文に関し再度検討を行う。
	14 ①授業テーマ 卒業論文の成果発表会（1） ②授業概要 卒業論文の内容について成果発表を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、質疑応答に参加し、論理的なディスカッションを行う（C1、E1、I1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 所定の発表時間で過不足なく成果発表を行えるようリハーサルを行う。 ④復習（120分） 質疑応答でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、必要に応じて卒業論文について加筆・修正を行う。
	15 ①授業テーマ 卒業論文の成果発表会（2） ②授業概要 卒業論文の内容について成果発表を行う（C1、E1、I1、K1、K2、L1、M1）。また、質疑応答に参加し、論理的なディスカッションを行う（C1、E1、I1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 所定の発表時間で過不足なく成果発表を行えるようリハーサルを行う。 ④復習（120分） 質疑応答でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、必要に応じて卒業論文について加筆・修正を行う。
関連科目	演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2（RMGT1215・1RMGT216）」・「危機管理基礎演習Ⅰ・Ⅱ（RMGT2601・RMGT2602）」・「ゼミナールⅠ～Ⅲ（RMGT4601・RMGT4602・RMGT4603）」と関連します。
教科書	なし
参考書・参考URL	各回の授業において適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ40%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ20% ■危機管理学と法学とのバランス 法学10%：危機管理学90%

